

上野健康医学センター

東京都台東区東上野2-2-1-101
TEL.03-5806-1950 FAX.03-5806-1951
http://kenko-igaku.com

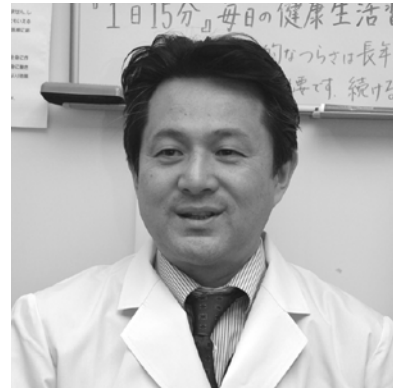
代表 インタビュアー
対談 明石 景陽・山田 宜子 × 松木 安太郎
[サッカー解説者]



INTERVIEW
KEIYO AKASHI・NORIKO YAMADA × YASUTARO MATSUKI

「バンキー療法」の本格施療を通して、皆様の長年の悩みを解決します

松木 上野健康医学センターさんではどんなことに取り組んでおられるのですか。
明石 当センターでは頑固な肩こり、腰痛を始めとする様々な悩みの根本的解決を目指し、伝統的療法に独自の創意工夫をしながら、お一人お一人に対応しております。「これまで他の療法に通っていたがどうも改善しない」といった方々に喜ばれております。
松木 具体的にはどんな療法を。
明石 カップを肌に吸着させる「真空浄血バンキー療法」、治療用カーボンを焚いてつくり出した温かな光を照射する「温熱光線療法」、脊椎の並びを整え全身の血流を促進するものや、自律神経を調整する療法などがございます。これらの療法は「根本的に作



用し効果が高い」「副作用を伴わない」「安全で心地よい」「長い歴史と実績がある」という四つのポイントにこだわりました。
松木 「バンキー療法」について興味があるのですが。
明石 詳しく申し上げますと、「バンキー療法」は身体の各部分や目的に応じたガラスのカップを素肌に当て真空ポンプで空気を抜いて吸着させていくというものです。東洋医学の経絡経穴を応用し、吸着の強さと時間をコントロールしながら施療します。体の各部分は互いに連携し合っていますので、症状を伺いながら広い範囲に施療することが多いですね。そして内臓、筋肉、各部の体表反射を見ながら経穴の奥深いところまで血流を促進させ、自然治癒力を高めて頑固な凝りや疲労を回復させます。また、体内に滞留している悪いガスや老廃物を吸い上げ、排泄を促進する効果も期待できます。健康な人の吸着痕はピンク色になってすぐに消えていきますが、悪い部分には「瘀血」と呼ばれる古く汚れた血液が滞っているのが紫や赤黒い色の色素反応が出てきます。この痕は一週間ほどで浄化され元通りになり、繰り返し施療をすると、どんどん健康反応になっていきます。

松木 施療を受けられた方の反応は。
明石 初めての人が多いですが、「体が軽くなった」「凝りが気持ちよく伸びた」「思わず寝てしまった」「以前受けた似た療法とは全く違う」という感想をよく頂きます。ちなみに当院では女性の療法師もいますので、女性のお客様からも安心して受けられると好評です。また、皆様には自分で心地よい、かつつらいなど感じられる部分や症状、その繋がり、広がりなどを詳しく聞きながら圧力を加減したり他の療法と組み合わせたりしているのが特徴で、微妙な調整をして、お一人お一人の症状に対応していきます。
松木 松木さんもぜひ一度試してみませんか。
松木 ええ、お願いします。(バンキー療法を受ける)とても気持ちがいいですよ。こんなに深いところに届く感覚はすごいですね。マッサージのように揉まれているような感じのところもあります。
明石 呼吸するようにカップの中の減圧力を高めたり緩めたりしているからです。
松木 本当に最高の施療でした。じつくりと話しながら聞いてもらいながら調節してくれるのがいいですね。気になる料金はどういうように設定されているのですか。
明石 通常六十分で五、〇〇〇円に設定しておりますが、「クイック」や「足つば」で十分一、〇〇〇円もあります。また、お客様の身体の状態に合わせて「光線療法」「自律神経マッサージ」「リンパマッサージ」など各メニューを組み合わせた「おまかせ健康爽快コース」(二二〇分一万円)も用意しております。
松木 どれくらいの頻度で施療を受ければいいのか。
明石 毎日でも構わないのですが調子が悪いといった自覚のある時で週一回予防目的なら月一〜二回が目安です。大抵は三回ほどの施療で「全身が楽になってきた」「爽快感がある」と言われま

① INFORMATION

【末病発見、体質改善、健康増進の予防医学を実践します】



「真空浄血バンキー療法」を体験した松木氏は「気持ちよかった」と絶賛。

す。健康維持や病気予防のためにも通う方が多いのですが、一年ほど定期的に來られている方々は身体全体が機能を取り戻し、「若返ったね、何かしているの」と周囲から言われるそうです。
松木 それにセンター内の雰囲気がとてもよく、リラックスできますね。
明石 オープン時から本格施療を提供すると同時に、サロンのような雰囲気癒しの空間にできればという思いがありましたので。
松木 今後の展望はどのように。
明石 現在実現しつつありますが、私が目標としているのは子どもの療法と現代医療とのドッキングです。西洋医学のドクターにはなかなか受け入れて頂けないことも多いのですが、東洋医学を理解する方とのコラボによって病气改善の実績が格段に上がっていくことを期待しております。
松木 これからも更なるご活躍を。